

【エクアドル内政：2017年1月】

1. 内政

(1) 任期付新副大統領の任命

ア コレア大統領は、2017年1月4日付大統領令第1291号により、同日から2月20日までの期限付で新たに副大統領を任命した。

- ① 一時離任する副大統領：ホルヘ・グラス副大統領
- ② 任期付で就任の新副大統領：サンドラ・ナランホ副大統領

イ グラス氏は、エクアドル選挙法第93条に従い、投票日（2月19日）の翌日まで一時離任（無給）するための要請を国会に提出し、4日に右承認された。

ナランホ氏の前職は、国家企画開発庁長官。

(2) 閣僚の任命

コレア大統領は、2016年12月19日付大統領令第1284号により新たに経済政策調整大臣及び財務大臣を、2017年1月4日付大統領令第1292号により新たに内務大臣及び国家行政庁長官を、同年1月6日付大統領令第1293号により新たに保健大臣及び都市開発・住宅大臣を、同年1月19日付大統領令第1301号により新たにスポーツ大臣を任命した。

ア 辞任した閣僚

- ① パトリシオ・リベラ経済政策調整大臣
- ② ファウスト・エレラ財務大臣
- ③ ディエゴ・フエンテス・アコスタ内務大臣代理
- ④ ペドロ・ソリーネス・チャコン国家行政庁長官
- ⑤ マルガリータ・ゲバラ保健大臣
- ⑥ マリア・デ・ロス・アンヘレス・ドウアルテ都市開発・住宅大臣
- ⑦ ハビエル・マウリシオ・エンデリカ・サルガド・スポーツ大臣

イ 新閣僚

- ① ディエゴ・マルティネス経済政策調整大臣
- ② パトリシオ・リベラ財務大臣
- ③ ペドロ・ソリーネス・チャコン内務大臣
- ④ ルイサ・マグダレナ・ゴンサレス・アルシバル国家行政庁長官
- ⑤ ベロニカ・エスピノサ保健大臣
- ⑥ リネ・カティウスカ・ミランダ都市開発・住宅大臣
- ⑦ カレン・パメラ・モルシージョ・オルティス・スポーツ大臣

(3) 選挙キャンペーンの開始： 1月3日、選挙運動が解禁（2月16日迄）。

(4) 次期大統領選挙に関する各種世論調査結果 (1月分)

ア 世論調査会社Perfiles de Opinionの世論調査結果 (2017年1月7, 8日に実施。キト市, グアヤキル市, クエンカ市における合計936人に対し実施。)

① 投票先を決めていない人の割合: 32.71%

② 各候補者への支持率

・ レニン・モレノ	35.05%
・ ギジェルモ・ラソ	17.02%
・ シンティア・ビテリ	13.51%
・ パコ・モンカヨ	8.15%
・ アブダラ・ブカラム	4.16%
・ イバン・エスピネル	1.59%
・ ワシントン・ペサントス	0.72%
・ パトリシオ・スキランダ	0.25%
・ 無効	12.14%
・ 白紙	7.42%

イ 世論調査会社Cedatosに世論調査結果 (2017年1月12~22日に実施。合計2,120人に対し実施 (実施都市については不明。))

① 投票先を決めていない人の割合: 39%

② 各候補者への支持率

・ レニン・モレノ	34.3%
・ ギジェルモ・ラソ	22.9%
・ シンティア・ビテリ	11.4%
・ パコ・モンカヨ	8%
・ アブダラ・ブカラム	4.3%
・ イバン・エスピネル	1.7%
・ ワシントン・ペサントス	0.5%
・ パトリシオ・スキランダ	0.3%
・ 誰にも投票しない	11.7%
・ 白紙	4.9%

③ 国の変化の要否に関する調査回答

・ 重要な変化が必要	69%
・ 漸進的な変化が必要	20%
・ 現在の方向性を維持すべき	10%
・ わからない	2%

ウ 世論調査会社Marketの世論調査結果（2017年1月18～20日に実施。24県（全県）における合計9,120人に対し実施。）

① 投票先を決めていない人の割合：37.8%

② 各候補者への支持率

- ・ レニン・モレノ 28.17%
- ・ シンティア・ビテリ 17.98%
- ・ ギジェルモ・ラソ 16.57%
- ・ パコ・モンカヨ 13.22%
- ・ アブダラ・ブカラム 4.78%
- ・ イバン・エスピネル 1.53%
- ・ パトリシオ・スキランダ 1.30%
- ・ ワシントン・ペサンテス 0.59%
- ・ 無効 9.20%
- ・ 白紙 6.70%

（5）コリア大統領施政10周年記念会合

1月15日、コリア施政10周年記念会合がグアヤキルにて開催され、コリア大統領、モレノ氏、グラス氏、与党シンパ等が出席。コリア大統領は、10年間の「市民革命」の成果を強調した他、経済及び財政の状況は良くなりつつある旨述べた。他方、右について、野党等からは、公金の無駄遣いであるとの批判もあった。

2. 外交

（1）ニカラグア大統領就任式へロング外務大臣が出席（1月10日）

（2）エクアドルのG77議長国への就任。

13日、エクアドルが国連G77の議長国に就任。同日のニューヨークにおける就任式にコリア大統領及びロング外務大臣が出席した。コリア大統領は、同就任式直前のインタビューにて、国連の民主化の必要性につき述べ、「力を背景とした一部の特権を持った国ではなく、総会が決定権を持つべき旨述べたとの報道があった

（3）エクアドルにおけるコロンビア政府とELNの協議

13～18日にかけてエクアドルにおいてコロンビア政府と国民解放軍（ELN）が協議し、2月7日に正式な和平交渉を開始することに合意した。

右に関し、19日、ロング外務大臣がオルギン・コロンビア外務大臣と会談を行い、団結してコロンビアの和平プロセスへ取り組むことで一致した。

（4）第5回CELAC首脳会談へのコリア大統領等の出席

24～25日、第5回ラ米カリブ諸国共同体（CELAC）首脳会談がドミニカ共和国にて開催され、右にコリア大統領及びロング外務大臣が出席。エクアドルに

おける報道振りでは、トランプ米大統領のメキシコへの壁建設を命ずる大統領令と同日であったこともあり、右に関するCELAC及びコリア大統領の言及を報じた。また、本会談が最後のCELAC会談への出席になるコリア大統領にとっては、送別の意味もあった旨と報じた。

(5) UNASUR臨時外相会合の開催とサンペール事務局長の任期終了

31日、キト市にて南米諸国連合（UNASUR）臨時外相会合が開催された。右において、ロング外務大臣は、同会合にて3年間の任期を終えたサンペール事務局長の尽力と貢献への謝意を表明した他、同事務局長の後任については、早期に任命予定である旨述べた。

サンペール事務局長は、事務局長としての主要な職務は、コロンビアにおける和平交渉のための協力、ベネズエラ内政の安定化のための対話、ラ米地域における選挙プロセスへの同伴等であった旨総括した。

また、同事務局長は、米国トランプ新大統領の移民政策に対する「集団的連帯」を呼びかけ、同新大統領の提案する米国及びメキシコの間壁について「恥ずべきこと (de la ignominia)」であると述べた。

(了)